

<日商簿記 3 級> フリーテキスト講座

～有形固定資産（購入・決算）—①～ 全 5 枚



Morisato

弥生カレッジ GMC フリーテキスト講座（無料動画で公開中）

～有形固定資産～

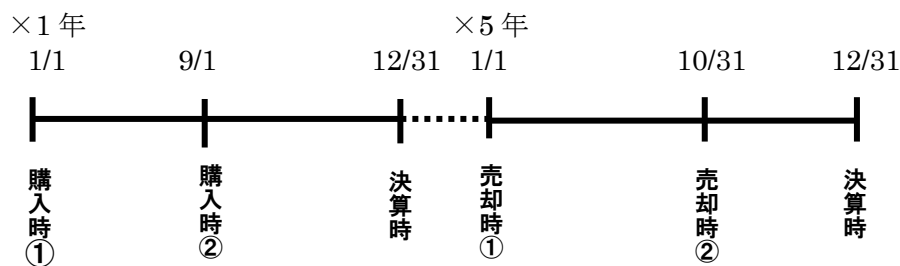
◆固定資産

・固定資産??

有形固定資産…建物・備品・土地・車(車両運搬具)など、具体的な形があり長期にわたって使用する資産のこと。
無形固定資産…特許権・商標権など、具体的な形がなく長期にわたって使用する資産のこと。(2級で学習します。)

下記のような一連の流れで確認していきましょう。

会計期間：1月1日～12月31日



～固定資産を期首に購入した時～(購入時①)

【例】×1年 1/1 当社は、建物 800,000 円を購入し、代金は小切手を振出して支払った。なお、購入にあたっての不動産会社に対する仲介手数料 20,000 円は、現金で支払った。

建 物	820,000	当座預金	800,000
		現 金	20,000

(★ポイントは、付随費用の処理) 購入代価+付随費用=取得原価
800,000 円+20,000 円=820,000 円(取得原価)

付随費用を含める場合

- | |
|-----------------------|
| ①商品を生入れたとき→仕入原価に含める |
| ②固定資産を購入したとき→取得原価に含める |

では次に、×1年 1/1 に購入した建物を決算時に「減価償却」をしましょう。

◆減価償却

・減価償却??

…有形固定資産は使用することによって年々価値が減っていきます。そこで決算時に、決められた計算方法に基づいて価値が減った分の計算を行い、費用計上を行うことをいいます。(減価償却費)

・決められた計算方法?

…計算方法はいくつかありますが、日商簿記 3 級 2 級では、定額法・定率法・生産高比例法という 3 つの方法が出題されます。3 級では、「定額法」のみ学習します。

残り 2 つは、2 級で学習ですので、ここからは定額法を前提に進めていきますね。

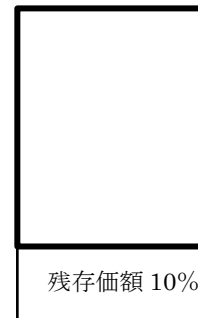
・因みに…

…帳簿への記帳方法も 2 つの方法があります。「直接法」と「間接法」です。考え方も異なりますし、使用する勘定科目も異なります。3 級では、「間接法」のみ学習します。(直接法は 2 級で学習します)

・減価償却費を計算するための 3 要素

- ① 取得原価：有形固定資産の購入にかかった金額
- ② 耐用年数：有形固定資産の利用年数
- ③ 残存価額：耐用年数まで使用したときに残っている価値の金額

取得原価 820,000 20 年



～決算のとき～(×1年決算時)

【例】×1年 12/31 当期首に購入した建物(取得原価 820,000 円 残存価額は取得原価の 10%、耐用年数 20 年)について、定額法により減価償却を行う。記帳方法は間接法である。

1.まずは減価償却費の計算をする。

計算方法…

方法 1 残存価額：820,000 円×10%=82,000
減価償却費：(820,000 円－82,000 円)÷20 年=36,900 円／年

もしくは…

方法 2 減価償却費：820,000 円×0.9÷20 年=36,900 円／年

※慣れたら**方法 2**の計算方法の方が速いです。

毎年 1 年間固定資産を使用したときは、この額を決まって減価償却するから…「定額法」ですね。

2.記帳(仕訳)をする。

間接法

減価償却費 36,900/ 減価償却累計額 36,900

建 物	減価償却累計額
820,000	36,900

「建物」勘定からは減らさずに、「減価償却累計額」勘定を使用して、間接的に減らすから間接法…ですね。

固定資産・減価償却・間接法といえば仕訳は
減価償却費 ××/減価償却累計額 ×× です。
お決まりの仕訳で、試験でも毎回のように問われています。
セットで覚えてしまっても良いかもしれませんね。



◆年次決算・月次決算

年次決算……1 事業年度の最終日（決算日）におこなう決算

月次決算……毎月末に行う決算

経営者は日々様々な意思決定を行っています。

その意思決定は、会社の経営成績に大きく影響する決定も多々あります。

その中で何を基準に意思決定を行うのかは、様々な理由があると思います。

例えば、経営に関する判断…



Q.従業員が3人辞めるが、3人募集してもいいの
 だろうか？
 Q.新店舗を出す案件があるが、果たして出店し
 てもいいのだろうか？
 Q.利益が出過ぎて、税金を沢山払うことになら
 ないだろうか？

このような経営に関する判断の意思決定は、どのように行うのでしょうか？

それは毎月の経営成績などを見て判断します。(黒字か赤字か…)

年次決算しかしていないと、全て(1年間)が終わった後にしか経営成績などが分からず、意思決定も遅れてしまします。

月次決算をしていると、タイムリーな経営状況が把握できて、適切な意思決定が可能になります。

ということで、簿記の試験でも固定資産の減価償却について、月次決算の処理を問われることがあります。計算方法はとても簡単です。

$$\boxed{1 \text{ 年分の減価償却費} \div 12 \text{ ヶ月} = 1 \text{ ヶ月の減価償却}}$$

今回の問題の金額を当てはめると…

$$36,900 \div 12 \text{ ヶ月} = 3,075 \text{ 円/1 ヶ月} \quad \text{となります。}$$

仕訳(間接法) 減価償却費 3,075 / 減価償却累計額 3,075

上記を毎月末に行うことで、最終的に1年分の減価償却費が計上されるということです。

$$3,075 \times 12 \text{ ヶ月} = 36,900$$

ここまでで、期首に固定資産の購入→決算の流れと月次決算について確認しました。

では、期中に固定資産の購入→決算の処理は、どうなるのかを確認しましょう！

～固定資産を期中に購入したとき～(購入時②)

【例】×1年9/1 当社は、建物 800,000 円を購入し、代金は小切手を振出して支払った。なお、購入にあたっての不動産会社に対する仲介手数料 20,000 円は、現金で支払った。

建 物	820,000	/	当座預金	800,000
			現 金	20,000

*購入時①と同じ計算方法と仕訳です。

～決算のとき～(×1年決算時)

【例】×1年 12/31 当期 9/1 に購入した建物(取得原価 820,000 円 残存価額は取得原価の 10%、耐用年数 20 年)について、定額法により減価償却を行う。記帳方法は間接法である。

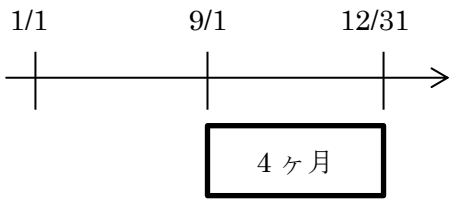
1.減価償却費の計算をする。

計算方法… 方法 2 を使っていきます。

→1 年分の減価償却費：820,000 円×0.9÷20 年=36,900 円/年

今回は、9/1 の期中に購入しています。

=当期に使用しているのは、4 ヶ月ですね。



→当期分の減価償却費：36,900 円× $\frac{4 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}}$ =12,300 円/4 ヶ月分

もしくは

36,900 円÷12 ヶ月=3,075 円/1 ヶ月

3,075 円×4 ヶ月=12,300 円/4 ヶ月

2.記帳(仕訳)をする。

間接法	減価償却費 12,300/ <u>減価償却累計額</u> 12,300
------------	-------------------------------------

因みに、貸借対照表(固定資産のみ)に記載されるとこのようなイメージです。(間接法)

貸借対照表

【資産】		【負債】	
⋮		⋮	
建 物	820,000		
減価償却累計額	△12,300	807,700	
⋮		⋮	
		【純資産】	
		(資本金…)	